

様式 1

令和 4 年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

1 研究課題名

札幌市の特別支援教育における学習環境の構築と多様なニーズに応じた支援方法の開発

2 研究代表者

札幌校・教授・安井友康

3 研究分担者・研究協力者

札幌校・准教授・齊藤真善。予算配分有：研究分担者
札幌校・准教授・池田千紗。予算配分有：研究分担者
札幌校・教授・三浦 哲。予算配分有：研究分担者
札幌校・准教授・千賀 愛。予算配分有：研究分担者
教職大学院・准教授・：川俣智路。予算配分有：研究分担者
附属小中学校・ふじのめ学級教員：研究協力者

4 令和 4 年度研究計画の達成度

- a 計画とおり達成した
 b 概ね達成した
 c あまり達成できなかった
 d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】

5 学術的成果

【論文投稿】

池田千紗、MTDLP を活用した学校内外の連携を促す学校作業療法の実践、作業療法ジャーナル 57(1)、10-15 頁、2023（査読無し）

【書籍出版】

合理的配慮にも活用できる！アダプテッド・スポーツで誰もが主役の楽しい
体育、池田千紗、安井友康、山本理人、中央法規、2022

発達をうながすハンドリング 生活動作の介助のポイント、鴨下賢一、池田千
紗、小玉武志、戸塚香代子、高橋知義、東恩納拓也、三和彩、三輪書店、2022

【学会発表】

日本 LD 学会第 31 回大会、2022/10/29～2022/10/30、京都、山下公司、山田
友美、池田千紗、通級指導教室における作業療法士の直接支援による学び
①通級指導教室教員の立場から

日本 LD 学会第 31 回大会、2022/10/29～2022/10/30、京都、池田千紗、山下
公司、清水夕貴、通級指導教室における作業療法士の直接支援による学び
②教員養成課程在学の学生の立場から

International Symposium of the Jockey Club "Sports without Limits" Youth
Empowerment Programme cum ASAPE 2022、2022/8/4～2022/8/6、HONG
KONG(ONLINE)、Ikeda Chisa、Yasui Tomoyasu、Kikuchi Aya、The Effect
of Dance Programs on Balance Ability in a Special Needs Class

International Symposium of the Jockey Club "Sports without Limits" Youth
Empowerment Programme cum ASAPE 2022、2022/8/4～2022/8/6、HONG
KONG(ONLINE)、Yasui Tomoyasu、Senga Ai、Ikeda Chisa、Yamamoto
Rihito、Kondo Naoya、Inclusive Physical Activities in the Local Event
“Everyone’s Play Place” in Sapporo, Japan

第 52 回北海道作業療法学会、2022/6/11～2022/6/12、北海道、池田千紗、中
島そのみ、小玉武志、仙石泰仁、教員と協働した児童への直接支援により教
員が感じた利点と今後の課題

日本アダプテッド体育・スポーツ学会第 27 回大会、同志社大学、2022/12/03
～2022/12/04、安井友康、池田千紗、千賀愛、インクルーシブな運動遊び参
加者の変化

第 22 回 北海道アダプテッド・スポーツ研究会、北海道教育大学札幌サテライト
キャンパス、辻朋佳・安井友康、知的障害のある中学生の投動作についての実
践研究—遠投と目標投げの比較を通して—

【その他】

池田千紗、インクルーシブ社会の実現に向けて（提言）、作業療法ジャーナル
57 (2) 110-111 頁、2023

6 実践的成果

【教材】

--

【評価方法】

--

【指導（授業）案】

--

【教育方法】

--

【その他】

事例検討会子 labo（教員、医療専門職による事例検討会）

通級指導教室での実践共同発表、2023年2月24日、教育大サテライト+オンライン、参加者25名

通級指導教室での実践共同発表、2023年1月27日、教育大サテライト+オンライン、参加者20名

通級指導教室での実践単独発表、2022年9月30日、幌北小学校、参加者15名

北海道発達障害 OT 研究会（主に医療専門職による事例検討会）

通級指導教室での実践単独発表、2022年12月9日、オンライン、参加者35名

こどものわ（主に医療専門職による勉強会）

進路と就労支援に関するセミナー、2022年9月24日、オンライン、参加者30名

合理的配慮に関するセミナー、2022年11月5日、オンライン、参加者30名

札幌市教育研究推進事業（札幌教研事業）特別支援教育部会（教員が参加）

特別支援教育と作業療法に関するセミナー、2023年2月27日、米里小学校+オンライン、参加者30名

札幌医科大学卒業後教育セミナー（医療専門職および教員が参加）

学校訪問による発達障害児への支援に関するセミナー、2023年1月28日、札幌医科大学+オンライン、参加者40名

7 その他、研究実施状況

「1-1 特別支援教育巡回相談員配置事業の事例研究」

令和5年2月に、特別支援教育巡回相談員に対し、本事業の目的を説明した。次年度（令和5年度）より、事例および執筆担当者の選定を行う予定である。

「1-2 医療専門職の活用状況と支援ニーズの調査」

医療専門職の活用希望のある教員・学校より依頼を受けて述べ31回の学校訪問を実施し、24ケースについて教員と共にアセスメントや指導を実施した。その中で、教員から医療専門職の活用状況や支援ニーズ、活用前後での成果と課題についてアンケート調査を行っている。

豊成支援学校と北翔支援学校の作業療法士と意見交流や北翔支援学校の作業療法士が研修として学校訪問に同行するなど、支援学校のセンター的機能活用方法について検討を重ねた。また北海道作業療法士会に協力を依頼し、医療専門職の派遣について内諾を得た。

札幌市教育委員会 学校教育部 学びの支援担当課の石川様、工藤様とオンラインでの打ち合わせを3回実施し、医療専門職の活用状況について共有した。次年度は教育委員会が窓口となり、札幌市立特別支援学校センター的機能を活用する手続きについて整理するとともに、外部人材の活用を図ることができるシステムづくりを進めている。

「2-1 発達性ディスレクシア（dyslexia）の早期把握と支援方法の開発」

令和4年12月に札幌市立幼稚園園長会、令和5年2月に札幌市立小学校校長会において説明会を開催し、本研究の目的、研究方法についての説明を行い、研究実施の同意を得た（説明会に提出した資料を別紙添付した）。令和5年度より、調査を開始することに決定した。

「2-2-1 自閉症スペクトラム障害（ASD）の視線研究と支援方法の改善」

北海道教育大学札幌校附属札幌中学校ふじのめ学級と連携し、中学校生徒を対象に「教師の教授行動と視線探索パターンとの関係について」および「対人的学習場面とICTによる学習場面の視線探索パターンの相違について」の実験を行った。現在データの解析中である。

今後も、新入学生を対象に実験を継続し、サンプル数を増やす予定である。

「2-2-2 ICTを活用したユニバーサルな授業の検討」

今年度は北海道教育大学附属札幌中学校ふじのめ学級にて、AI搭載型のタブレットドリルを導入し、今年度は試用期間として実践した。生徒の実施場面の観察、教員への聞き取

りから、1時間目の時間帯に自主学習のツールとして取り入れ、年間通して実践された。また長期休暇の宿題などにも活用された。教員はペーパレスの環境で、学習ログを参照しながら指導することができ、また採点や印刷といった作業がなくなったため、指導状況が大きく改善した。さらに授業などの練習問題としても活用され、指導計画や個々の指導案にも良い影響を与えている。他方で、生徒が学習がうまく進められないときの対応、コミットメントの低い生徒への対応については課題を残した。来年度は、学習ログを元にしてこうした生徒への指導方法を確立すると共に、学びのユニバーサルデザインの枠組みを元により主体的な学習者を育てるような実践を展開し、検証する予定である。

「2-3 発達性協調運動障害（DCD）の実態調査と支援方法の開発」

DCD の調査に関しては、児童 20 ケースを対象に、チェックリストによる運動機能評価、感覚特性の評価を実施し、日常生活で見られる運動の様子との関連の検討しながら、学習場面での道具の操作や体づくり運動の指導方法について教員と共に教材・教具の開発を進めている。

附属小学校特別支援学級（ふじのめ学級）において、児童 5 ケースを対象に、標準化されたアセスメントスケールを用いた運動機能評価、チェックリストによる感覚特性の評価を実施し、日常生活で見られる運動の様子との関連の検討しながら、毎朝の運動プログラムを 2 か月間実施した。運動プログラム実施前後での運動機能の変化や、運動プログラム中の児童の取り組み方の変化について検討を行っている。

イ 算数文章題指導方法の開発

算数文章題の学習につまずきを呈する児童生徒のリクルートが進んでおらず、現在は児童 1 ケースの個別指導のみを実施している。

3 札幌市における特別支援教育の総合的検討

「3-2 附属札幌小中学校ふじのめ学級との連携によるプロジェクト」

札幌市の教育課題として取り上げられている体力の向上に関しとりわけ冬期間の身体活動量が不足しがちな障害のある子どもに関し、スノーシューなど雪を活用した教材開発の取り組みを行った。

その他、「教科への意欲を高める自己評価活動の実践と検討—特別支援学級中学部での OPPA の活用を通して—」、「知的障害児のパラシュート活動に関する研究」「知的障害のある中学生の投動作についての実践研究—遠投と正確投げの比較を通して—」、「障害のある子どもとその保護者への自由遊びのニーズ調査と実践」、「自閉症スペクトラム障害者と定型発達者の授業場面における視線の特徴の比較」などの研究を共同して実施した。